

香 り 米 の 新 品 種 「 み や か お り 」 の 特 性

及 川 俊 昭 ・ 佐 々 木 武 彦^{*} ・ 阿 部 真 三^{*} ・ 松 永 和 久^{*} ・ 丹 野 耕 一^{**}(宮城県農業センター・^{*}宮城県古川農業試験場・^{**}大河原農業改良普及所)

Characteristics of A New Scented Rice Variety "Miyakaori"

Toshiaki OIKAWA, Takehiko SASAKI^{*}, Sinzo ABE^{*}, Kazuhisa MATSUNAGA^{*} and Koichi TANNO^{**}(Miyagi Prefectural Agricultural Research Center・^{*}Miyagi Prefectural Furukawa Agricultural Experiment Station・^{**}Ōkawara Agricultural Extension Service Station)

1 は し が き

稲には香り米という種類があり、普通の米に混ぜて炊くと新米のような香りのご飯になるので、日本ばかりでなく東南アジアやアメリカなどの稲作諸国でも古くから珍重されてきた。

宮城県には「岩賀」という香り米の在来種があり、現在でも小面積ながら栽培を続けている農家がある。

しかし、この「岩賀」は極長稈で耐倒伏性が極弱で、非常に栽培しにくい品種であり、収量も10a当り240kg前後で普通品種の半分程度になっている。

古川農試において、「岩賀」の強稈多収化を目標とした育種を行ってきたが、ほぼこの目標に近い香り米の新品種「みやかおり」を育成したので、その特性の概要を報告する。

表 1 特 性 一 覧

品 種 名	芒		稈先色	粒 着 密 度	脱粒性	玄 米		耐 病 性			穂 発 芽 性	耐 倒 伏 性	耐冷性
	多 少	長 短				品 質	香 り	葉いもち	穂いもち	白葉枯			
みやかおり	甚	やや短	赤褐色	やや疎	難	下 上	有	中	やや強	やや弱	中	やや弱	やや弱
ササミノリ	やや少	短	黄 白	やや疎	難	中 上	無	強	やや強	やや弱	中	やや弱	やや弱
岩 賀	甚	やや長	赤褐色	やや疎	難	下 上	有	弱	やや強	一	極 難	極 弱	一

移植時の苗丈はササミノリよりやや短く、葉色はササミノリ並で、葉身はササミノリよりやや垂れる。

稈長はササミノリより5cm前後短く、穂長はササミノリよりやや長く、穂数はササミノリより少なく、草型は中間型である。稈の太さはササミノリよりやや細めであるが、耐倒伏性はササミノリ並のやや弱である。

芒の多少についてみると、ササミノリより明らかに多く、「岩賀」並の甚であるが、芒の長さは「岩賀」より短く、やや短である。稈先色、稈色、芒色ともに「岩賀」に似て赤褐色であるが、色調は「岩賀」よりわずかにうすい。

粒着密度はササミノリ並のやや疎であり、脱粒性が難の粳種である。

玄米の形はササミノリ、「岩賀」よりやや長めで、千粒重はササミノリ並で「岩賀」より重い。玄米の外観品質は腹白、心白、乳白、光沢ともにササミノリより劣り、下の

2 育 成 経 過

「みやかおり」は古川農試において「岩賀」を母とし、短強稈系統である「奥羽282号」(後のハヤヒカリ)を父として、昭和47年8月に人工交配を行った後代から育成された品種である。雑種第1～3代まで集団栽培を行い、昭和49年雑種第4代で個体選抜を行い、以後系統栽培し、選抜固定をはかってきた。昭和54年以降、生産力検定試験、特性検定試験並びに系統適応性検定試験に供試してきたものであり、昭和58年は雑種第13代である。

3 特 性

「みやかおり」は出穂期はササミノリより2日程度早い、成熟期はササミノリと同程度で、育成地では中生の早である。

上のランクに入り、「岩賀」に比較すると腹白、心白がわずかに多い。

搗精歩合はササミノリより1%程度低く、「岩賀」と同じかわずかに低い程度であるが、搗精時の碎米の発生は、「岩賀」より少ない。

いもち病抵抗性については、真性抵抗性遺伝子Pi-aを持つと推定され、葉いもち病抵抗性はササミノリよりやや弱く中程度、穂いもち病抵抗性はササミノリ並のやや強である。白葉枯病抵抗性はササミノリ並のやや弱である。

障害型冷害に対する耐冷性はササミノリ並のやや弱であり、穂発芽性はササミノリ並の中程度である。

「みやかおり」は玄米及び白米に香り米特有の香りがあるが、混米による試食試験の香りの強さに関する調査結果を表3に示した。「みやかおり」の香りの強さは親品種である「岩賀」とほぼ同程度であり、炊飯時の混米量は個人

表2 生育・収量調査成績

品 種 名	栽培法	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/a)	同左比較 率 (%)	千粒重 (g)
みやかおり	標 肥	8. 7	9. 26	80.1	19.1	426	41.9	93	21.5
	多 肥	8. 8	10. 1	79.0	19.3	446	44.1	91	21.7
ササミノリ	標 肥	8. 9	9. 25	84.2	18.2	462	45.1	100	21.6
	多 肥	8. 10	9. 30	85.3	18.5	462	48.7	100	21.6

表3 混米による試食試験

釜No	混 米 の 割 合 (%)		炊飯米の 香りの程度*
	みやかおり	岩 賀	
1	1		適 度
2	3		適 度
3	5		やや強い
4	10		強すぎる
5		1	適 度
6		3	適 度
7		5	やや強い
8		10	強すぎる
9	0	0	(標準)

注. *: 5人による試食結果の平均, 混米のベースはアキヒカリ

の好みで差があるが1~3%が適量のようにであった。

4 収 量 性

「岩賀」は耐倒伏性が極弱で無窒素栽培でも倒伏するので、「みやかおり」と同一レベルでの収量の比較はできない。そこで、「みやかおり」は標肥(0.55kg/a)と多肥(0.7kg/a)条件で「岩賀」は無窒素および標肥条件で収量性を検討した。「みやかおり」の収量は表2に示したが昭和55年から57年までの3か年平均でa当り標肥で42kg, 多

表4 岩賀の収量性

品 種 名	精 玄 米 重 (kg/a)		
	昭 55	昭 56	昭 57
岩 賀	23.9	28.4	36.4
みやかおり	25.0	31.0	40.8
ササニシキ	34.0	36.6	—
ササミノリ	—	—	44.4
福坊主1号	27.1	—	—

肥で44kgであり, ササミノリの収量の90%程度であった。

在来品種「岩賀」の収量は表4に示したが, 昭和55, 56年は「岩賀」の慣行栽培に準じ無窒素栽培で, 昭和57年は一般品種の標肥栽培で試験を行った。3か年とも冷害年のため正確な収量水準の把握は難かしいが, 「岩賀」は昭和55, 56年には無窒素栽培でも完全に倒伏し, 収量はa当り24~28kgとなった。昭和57年には36kgと岩賀としては高い収量となったが, これは窒素を施肥したにもかかわらず57年の気象条件により, 「岩賀」の稈が伸びず倒伏が少なかったためと思われる。

「みやかおり」の配布先における試作成績を表5に示したが, どの試験地においても短稈で倒伏が少なく, 玄米収量はa当り48.9~57.3kgであり, 比較品種の80~96%の収量水準となった。

表5 配布先における試作成績

年次(昭)	試 験 地	品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈 長 (cm)	玄 米 重 (kg/a)	同左標準対比 (%)
55	福島冷害	みやかおり	8. 9	9. 23	66	57.3	96
		ササミノリ	8. 11	9. 25	78	59.7	100
	秋田本場	みやかおり	8. 7	9. 30	71	52.4	79
		トヨニシキ	8. 12	10. 2	76	66.3	100
	東北栽一	みやかおり	8. 5	9. 18	64	48.9	82
57	東北栽一	キヨニシキ	8. 5	9. 15	71	59.7	100
		みやかおり	8. 8	9. 20	74	54.0	86
		ササニシキ	8. 9	9. 19	83	62.9	100

このように「みやかおり」は一般品種並の多肥栽培が可能であり, 「岩賀」よりかなり多収になった。

5 ま と め

以上のように, 「みやかおり」は栽培諸特性がササミノリに近く, 収量性もその90%程度で, 香り米としては他に

例を見ないほど特性が改良され, 香り米栽培農家の要望をほぼ満たす品種と考えられる。

「みやかおり」の栽培適地は東北中南部と推定されるが, 昭和58年度から宮城県において「普及に移す技術(参考事項)」として公表され, 種苗法に基づく品種登録の出願も行われた。